

2. 夜久野の古墳と周辺環境

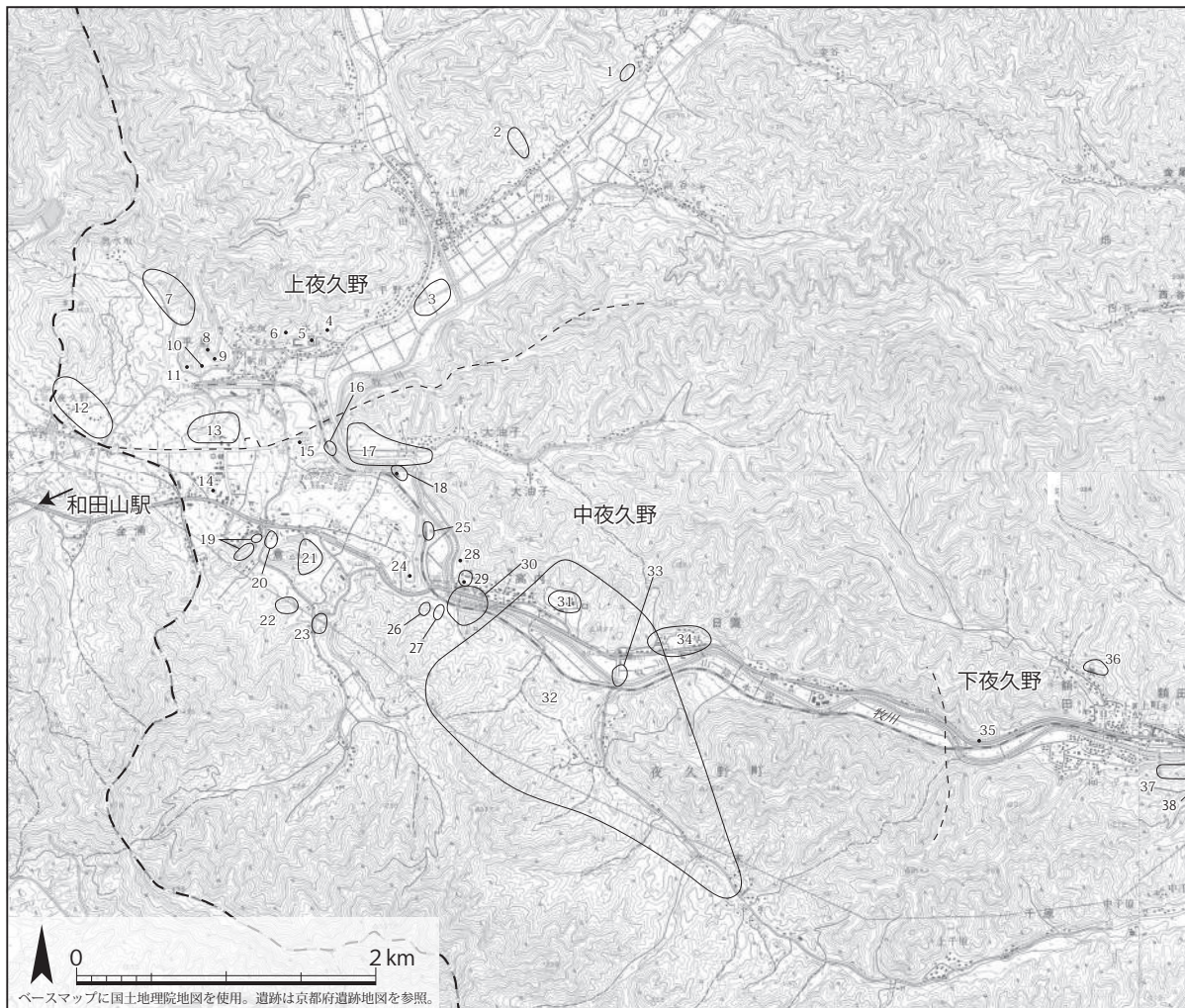
夜久野は京都府福知山市西部に位置し、兵庫県朝来市、豊岡市、丹波市、と接している。旧丹波国天田郡に属し、遺跡は東西に流れる牧川を中心とした狭長な谷筋の両側や、狭い平野部に展開する。考古資料からみた夜久野の古代については『夜久野町史』第四巻（通史編）で詳細がまとめられており、本章では古墳時代を中心に詳述する。

夜久野に旧石器時代から遺跡が確認されている。後期旧石器時代の稚児野遺跡（図1：40。以下、図1を省略）は牧川と畑川に挟まれた標高約104mの台地上に位置し、始良丹沢火山灰層より下の地層から約1200点の石器が出土した。多数の石器集中部と剥片が検出され、道具ではナイフ形石器、刃部磨製石斧、石材は黒曜石、サヌカイト、チャートなどが確認され、京都府内最古級の旧石器と評価される（岡田2022）。縄文時代早期には荒堀遺跡（17）、稲泉遺跡（42）、後期には畔田遺跡（33）、晩期には菖蒲池遺跡（13）で土器や竪穴建物が確認されている。中でも荒堀遺跡では早期のほか、前期や後期、晩期の土器も出土し、同じ場が繰り返し生活の場として使用されたと考えられる（菱田2013）。

弥生時代は、今のところ前期から中期前半に遡る遺跡は確認されていない。中期後半の段階になると、中夜久野の日置遺跡（34）、下夜久野の稲泉遺跡で遺物が確認できる。断片的な調査に留まり顕著な遺構は検出されていないが、集落遺跡に関連すると考えられている。墳墓や後期に属する遺物は現在確認されていない。

夜久野の古墳時代前期、中期の様相は明らかではない。近畿地方北部の様相と照らし合わせると、5基の円墳で構成される五宝山古墳群（37）、4基の円墳からなる北天井古墳群（36）など丘陵上に立地する古墳群、木棺直葬墳と考えられる稚児野古墳（39）の中には前期から中期に遡るものが存在する可能性がある。集落では稲泉遺跡、茶堂遺跡（12）が出土土器から古墳時代前、中期に遡りうるものの、建物などの遺構は未確認である。

後期になると古墳の築造が活発になり、上夜久野、中夜久野、下夜久野の各地で様々な規模の古墳が確認されている。夜久野に位置する約80基程の古墳には遺物が確認されていないものも多いが、横穴式石室に由来すると考えられる石材の露出や須恵器の散布、立地や形状から大半が後期に属する可能性が高い。上夜久野、中夜久野ではおかんど山古墳（2）、間地古墳群（1）、長尾古墳（6）、太田森古墳群（18）、岡ノ山古墳群（21）などが所在する。ほとんどが円墳とされ、方墳の可能性のあるのは榊塚古墳（14）、狼塚古墳（24）などわずかである。大方が横穴式石室を主体とすると考えられるが、中でも竪穴系横口式石室をもつ流尾古墳（5）、丹波最大規模の両袖式横穴式石室をもち、畿内の石室の影響を受けた早期の例として注目される長者森古墳（29）は石室形態と副葬品が明らかになっており（Ⅱ部3章参照）、古墳時代後期の夜久野を考える上で重要な資料である。また、長者森古墳の南西にはより時期の降る千切塚古墳群（27）、竹ノ内古墳群（26）



1. 間地古墳群 2. おかんど山古墳群 3. 白ヶ森遺跡 4. 大年古墳 5. 流尾古墳 6. 長尾古墳 7. 筵谷古墳群
 12. 茶堂遺跡 13. 菖蒲池遺跡 14. 榊塚古墳 15. 枇杷塚古墳 16. 廣瀬古墳群 17. 荒堀遺跡 18. 太田森古墳群
 23. 塔の山古墳群 24. 狼塚古墳 25. 藤原古墳群 26. 竹ノ内古墳群 27. 千切塚古墳群 28. 柳谷古墳群
 33. 畔田遺跡 34. 日置遺跡 35. 瘤屋敷古墳 36. 北天井古墳群 37. 五宝山古墳 38. 長谷古墳 39. 稚児野古墳
 44. 先ノ段古墳 45. 長須古墳 ※本書で報告する遺跡についてはゴシックで表記。

図1 夜久野の古墳と周辺遺跡 (S=1/50000)

が位置し、後期以降に古墳が連続して築造される様子が看取できる。下夜久野は詳細の不明な古墳も多いが、双龍環頭大刀を出土した小倉田古墳(43)など、特徴的な古墳も見受けられる。集落遺跡の調査例は多くないものの、荒堀遺跡、高内鎌谷遺跡(31)で7世紀前半の竪穴建物が確認され、高内鎌谷遺跡では7世紀後半以降に掘立柱建物に移行していることが明らかとなっている(菱田2013)。

後期を中心にした古墳の分布をみせる夜久野は、長者森古墳のような大型の石室をもつ古墳の継続的な築造や大規模な群集墳の形成は確認できない。しかし、7世紀前半には末窯跡群(32)が操業を開始し、高内鎌谷遺跡では土馬や、土製紡錘車が発見されるなど、中夜久野に顕著な遺構が多くみられている。牧川を中心として東西に狭長な谷筋が広がる夜久野は東西の丹波―但馬間のみならず、



8. ゴリョウ古墳 9. 城越古墳 10. 坪尻古墳 11. 塚脇古墳
 19. 作山古墳群 20. 塚田古墳群 21. 岡ノ山古墳群 22. 宮ノ谷古墳群
 29. 長者森古墳 30. 高内遺跡 31. 高内鎌谷遺跡 32. 未窯跡群
 40. 稚児野遺跡 41. 大野古墳 42. 稲泉遺跡 43. 小倉田古墳

丹後—播磨間の南北をつなぐ「回廊」として評価され(菱田2013)、古墳時代も同様であったと考えられるが、調査された古墳は少ない。また十分な報告がなされていないものも多く、個々の古墳の内容についてはよくわからないことも多い。過去に出土した資料の基礎資料化は夜久野の古墳時代を考える上で喫緊の課題であろう。

(守田 悠)

参考文献

- (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
 2020「稚児野遺跡 第3次調査」(現地説明会資料)
 岡田健吾 2022「[2] 府内の主な発掘調査」
 『京都府埋蔵文化財調査報告書(令和3年度)』京都府教育委員会
 菱田哲郎 2013「考古資料から見た夜久野の古代」『夜久野町史』第四卷(通史編) 福知山市
 夜久野町史編集委員会『夜久野町史』第二卷(資料編) 福知山市

編集後記

本書の執筆・編集には、筆者含めた学生も少なからず携わった。思えば初めて末窯跡群の踏査に参加した時は、山の中で右も左もわからず先輩の背中にひっついていき、落ちている土器に夢中になっていた。後輩を先導する立場になると手元の地図と睨めっこしつつ、採取した土器の記録や、整理作業の日程を考えた。夜久野では先輩方の歩みも蓄積しており、私自身も他分野の先生方との合同踏査や資料の分析、成果報告会の開催などの得難い経験をした。その成果をこうして1冊にまとめ上げる段階に関わることができたことは感慨深い。多くの人と関わり、貴重な資料に触れる機会を得たことに感謝したい。(も)

表紙・裏表紙写真

上左：夜久野末窯跡群の調査風景

上中：長者森古墳

上右：ボーリング調査風景

下：夜久野末窯跡群の遠景（ナゲ地区）

(以上、菱田撮影)

裏表紙：小倉田古墳出土双龍環頭大刀

(栗山雅夫氏撮影)



京都府立大学文化遺産叢書 第28集

夜久野の後期古墳と末窯跡群

編集 菱田 哲郎 (京都府立大学文学部教授)
諫早 直人 (京都府立大学文学部准教授)
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
発行日 2024年3月29日
印刷 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2